

『守破離』 その歯科経営の道のり



ニコニコ歯科では、その名の通り、スタッフが笑顔で迎え丁寧に対応してくれる。「当たり前」の事を当たり前に行う。それが野本院長の信条だ。「経営のすべては現場にある。自ら率先して掃除も片付けもする。それが経営だと考えています。優しい表情の裏側には、自らを信じて進んできた経営者としての道のりからくる揺るぎない自信がみえます。」「歯科医師として成功するために必要なこと、それは『守破離』です。『守破離』とは、日本古来から伝わる、道を究めるために進むべきとされるステップのこと。初めに師匠の

型を「守り」、次にその型を「破り」自分に合った型をつくり、最後に型から「離れて」独自性を発揮する、という修行に置ける順序段階を意味する。
『守』最高の技術を持つ
師匠に仕えよ！
広島大学歯学部6年生となった当時、進路について真剣に悩んでいた。「将来独立すれば経営のスキルが必要になる。だから経営に長けた先生の下で修行し

のもと けんさく
1998年広島大学歯学部卒業後、大阪府の湯川歯科医院に勤務。そこで歯科医師としての高い技術力を修得。その後、医療法人佳晴会で分院長として勤務した後、2005年ニコニコ歯科のもとクリニックを開業。現在ドミナント式に4医院を展開している。



ニコニコ歯科のもとクリニック
〒590-0143
大阪府堺市南区新櫛尾台 2-1-1 光明池一番街
<http://www.nikoniko-dental.jp>

▶求人ページ P.000

たい」「いや、医師は技術職だ、歯科医院の経営を支えるのは何といっても医師の技術のはずだ。だから優れた技術を持った先生に仕えたい。」「経営」か「技術」か。心が揺れていた。そこで父親に相談することにした。「父は、歯科医師ではなくビジネスマン。経営に通じた人だったので、当然『経営に長けた医院へ行け』そう言われると思っていました。しかし、予想に反して父がくれたアドバイスは、「迷わず、技術の優れた先生につけ」でした。気持ちの整理が付き、優れたインプラント技術を有する先生に従事することに。偉大な師匠との出会いであった。

「師匠とマンツーマンの師事が始まった修業。『仕事は本当にきつかったです。キャリアの差があることは当然ですが、それでも同じ歯科医師として、その圧倒的な技術力の差を毎日見せつけられるわけです。わからないことがあれば教えてくれますが、不用意な質問では『何でも聞けばいい』というのではない。自分でよく考えてから質問しろ』とつき返される。悔しくて、トイレに駆け込んで涙を拭いたこともありました。』

そんな毎日であったが、3年目に変化が起きた。師匠が1ヶ月入院することになり、その留守を任せられたのだ。「高い技術を持つ先生の患者様を、まだまだ駆け出しの自分が対応しなければなりません。年中無休で夜遅くまでの診療。さらに訪問診療も行っていましたからそれは大変でした。しかし売上を落とすことなく無事やり通すことができたことで、大きな自信になったんです。』

『破』責任と裁量のある立場で 自分の型を磨け！

就職したとき心に決めていたことがあった。「どんなに辛く厳しくても、3年は絶対に辞めない」だった。「労働環境や待遇面だけで言えば、必ずしも良いとは言えない境遇でしたが、自分との約束である3年が過



ぎた頃には、自信とともに、百万両にも値する『技術力』という財産を手に入れました。

次のステージへ旅立つ時が訪れた。「これまでは型を守るだけでいい。これからは培ったすべてを試したい。そう考えるようになっていた時、分院長というお話をいただき転職しました。分院長という立場から一定の裁量を与えられ、広範囲にわたって自分を試す最高の機会を得ることができました。これまで学んだことをベースに、更に自分なりに考え改良した方法で、診療や経営の様々なことにチャレンジ。それは「失敗の連続」でもあったが、「成功への軌跡」でもあった。

赴任当時は日に10人ほどだった来患者数は、4年半の月日を経て40〜50人に増えていた。しかし一方で、任されているとはいえ、すべて思い通りにできるわけではない。分院長という立場に物足りなさを感じるようにもなった。もっと自分の思い描く経営を実践したい。そんな気持ちが強く込み上げてきた。「型を離れると

『離』自分の思い描く 理想の医院経営に向かって

自院の目標は、「多くの患者様に来ていただけること」「地域で一番の歯科医院になること」。実現に向け、フルラインナップの診療を年中無休で提供している。人材経営面における当面の課題は、「福利厚生充実」である。「ドクターがリフレッシュのための休暇を取りやすくなるためには、もっと人員を増やさなければなりません。皆で助け合える、より良い職場環境をつくること、地域で一番いい診療を提供することに繋がると信じています。』

「離」に到達した今、改めて礎の大切さを噛みしめている。最初の医院で訪問診療に出向いた際、患者様から「もう来なくていい」と言われ、そのまま師匠に伝えるも「駄目だ、行って来い」と突き放され、板ばさみで身動きが取れず苦しんだことがあった。患者様に「もう一度チャンスをご覧ください。何がいけなかったのでしょうか?」と必死でお願いし、なんとかもたらした最後のチャンス。工夫を重ね、一心不乱に診療に打ち込んだ結果「私の歯の面倒は一生貴方に診てもらいたい」という言葉を得られた。「飛び上がるほど嬉しかったですね。この訪問診療の経験のおかげで、医院での外来だけでは身につけることのできない、高い技術を身につけることができました。そして、真心のこもった行動においてのみ、患者様の信頼が得られるということも理解できました。だからとにかく、最初は技術力のあるもとも尊敬する師匠に従事することで。経営は後からいくらでも学べます。』

野本院長の技術力と経営力の源泉、それは研ぎ澄まされた臨床家としての心なのかもしれない。

ニコニコ歯科のもとクリニック 院長
Kensaku Nomoto

野本健作